

「北山エリア整備基本計画」で
植物園とその周辺がどう変えら
れようとしているのでしょうか

「計画」の基本的な発想は、この一帯を大きなイベント
のできる賑わいの空間にして、植物園をそのた
めに活用しようというものです。植物園とともにこの地
に培われてきた自然や文化の環境と歴史を一挙に
破壊することになりかねません。



1 「計画」の中心は、大学体育館老朽化→建て替え必要という大学の長年の要望を放置しておきながら、これを機に、一万人が入る**巨大アリーナ**にし、スポーツイベントを呼び込める施設にしようとするものです。

2 旧総合資料館跡地には、**複合型総合劇場や宿泊施設**をつくり、「南北の軸」、「東西の軸」に沿って、「賑わい、交流機能」の施設を計画しています。

3 「計画」にとって、ネックとなるのが、**植物園の境界**です。周辺と行き来しやすくし、賑わいの施設を配置するために、境界の生垣、高木群をかなりの箇所削らなければならなくなります。園地の境界は植物園全体の保全にとって極めて重要であり、境界に沿って、貴重な植物と施設が連なっています。一時の「賑わい」づくりのために植物園を縮小し、境界に手を付けることはしてはならないことです。